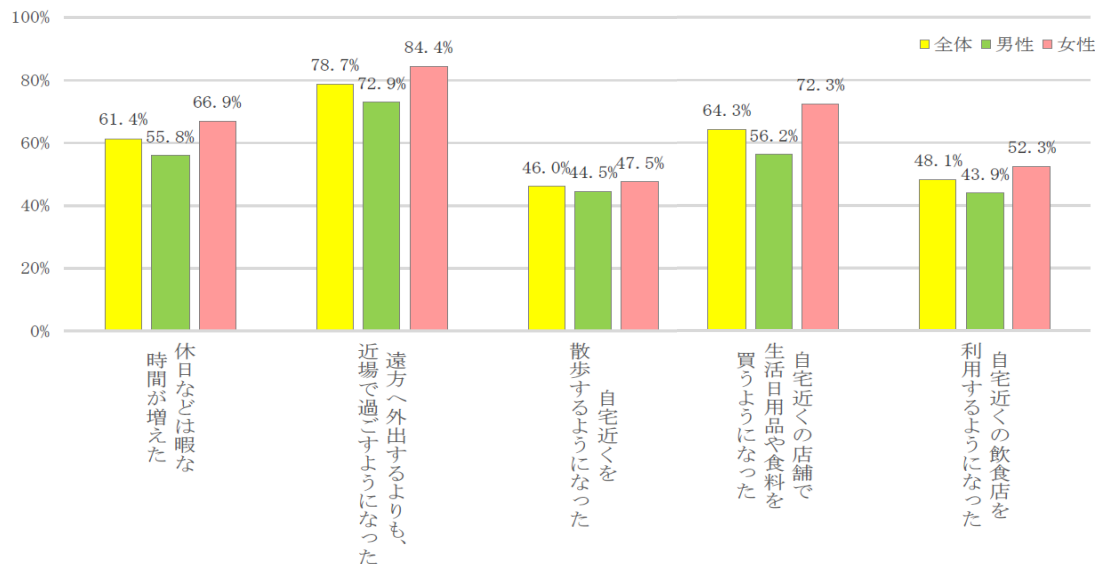




3年生の皆さん、学年末考査お疲れさまでした。2月1日からは家庭学習となり、学校に登校する機会が少なくなります。この期間、家庭で過ごす時間が多くなるとは思いますが、不要な外出を控え、生活リズムを崩さず、コロナ感染防止に努め、健康管理を十分に行ってください。

また、1年、2年の生徒の皆さんも、2月、3月は高校入試が実施されることにより、家庭学習の時間が増えます。学年末考査に向けての家庭での学習やコロナに感染しない生活を徹底させると共に、不要不急な外出を自粛し規則正しい生活を送ってください。

感染拡大による日常生活の変化の実態(全体・性別)



第一生命経済研究所が実施した「第3回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」の結果より

生徒の皆さんにとって、新型コロナ感染を予防しながら日常生活を住まいのある地域で過ごす時間が増え、行動にも注意しているという人も多いことでしょう。

多くの社会活動においてオンライン化が加速されており、今後ますます私たちの暮らし、学び、仕事等が変わっていくと考えられます。左のグラフから観ても分かるように、感染拡大を防ぐためにオンライン化を取り入れた生活により、人々の行動範囲が狭まってきています。

性別で見ると、どの項目においても女性の方が「あてはまる」と回答している割合が高く、特に男女で差が見られた項目としては、「自宅近くの店舗で生活日用品や食料を購入するようになった」の差が16.1ポイント、「遠方へ外出するよりも、近場で過ごすようになった」の差11.5ポイントとなっています。女性の方が遠方への外出を意識的に控えていたり、近場で購入したりしていることが推測されます。

グラフにはありませんが、年代別では、男女共に年齢が上がるほど、これらの項目について「あてはまる」と回答した割合が高い傾向にあったそうです。これは、高齢になるほど新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいということが影響していると考えられます。



Youth, refrain from going out.

正常性バイアス (Normalcy bias)

心理学で使用される用語です。「予想外のリスクが発生した時、状況を過小評価してしまう人の心の働き」のことです。

この心の動きとは、新型コロナ感染による急激な社会変化、私たちの生活の変化等の異常事態に直面している今、「自分は大丈夫だろう」「たいしたことにはならない」「きっと安全だろう」と正常の範囲内であると考えようと心の平静を保とうとしてしまう心理傾向だそうです。この「正常性バイアス」が行き過ぎると「大したことがない」と楽観的に錯覚し、正常な判断ができなくなってしまう、我慢できなかつたり、他の人に迷惑を掛けたりする誤った行動を取りがちになるそうです。

～ 思いやりの心を持ち、八工生らしい素晴らしく健康で有意義な生活を送ってください。～